



日本一マニアックな山城スタンプラリー 第2弾!

戦国境界探訪

2025年 12月13日(土)より開始

*終了日は HP「KEINAN SPOT」でご確認ください

今回のスタンプは武将キャラクター!



参加方法

申込み不要!! どなたでも参加 OK!!
下記の手順で自由にお楽しみください!

当時、その山城にいた(かも知れない)人物をたずねよう!

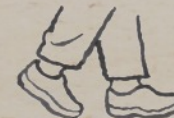
① 台紙を GET

開催期間内にスタンプ台紙設置
場所へ行きスタンプ台紙を受け取る



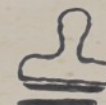
② 山城を巡る

台紙の案内に沿って山城を巡る



③ スタンピング

各山城に設置してある
10のスタンプを台紙に押す



④ 見せびらかす

完成した台紙を山城仲間に
自慢する!



名前

【主催】恵南地区文化遺産活用実行委員会

【後援】恵那市教育委員会

この事業は  「令和7年度文化庁文化芸術振興費補助金」によって実施されています。

時は元龜四年（1573年）。

織田信長と武田勝頼の同盟が崩れ、戦国の覇を競う両雄は、美濃の東南部——現在の恵那市南部——通称「恵南地域」——を挟んで激突しました。

この地を治めていたのが、遠山氏。遠山氏は中世を通して東美濃一帯に勢力を張った土豪であり、信長の重臣・森可成の義理の親族にあたるほか、明智光秀とも縁深い家系とされます。彼らは武田方の侵攻に対して強固な防衛線として岩村城を本拠とする数十の山城や砦を構築。

そして、文字通りの激戦を展開しました。

本スタンブラリー「戦国境界探訪 織田と武田のはざまの地を歩く」では、その激動の時代を、史料に基づいた支配状況と人物相関から再構成。ビックアップした10の山城を歩きながら、織田・武田・遠山氏らの攻防と駆け引きの痕跡をたどることが出来ます。

「信長はなぜこの地を重視したのか？」

「勝頼はなぜここを抜こうとしたのか？」

「遠山氏たちはどの様に戦おうとしたのか・・・？」

城に立ち、道を歩けば、その答えが見えてくるかもしれません。いま、あなたも「戦国の境界」を体感する旅へ。

目次

- ・ 目次・注意事項01
- ・ まえがき02
- ・ 山城広域マップ03-04
- ・ 岩村城05-06
- ・ 飯羽間城07-08
- ・ 上手向城09-10
- ・ 下手向城11-12
- ・ 落合砦13-14
- ・ 諏訪ヶ根砦跡15-16
- ・ 明知城跡17-18
- ・ 城山砦跡19-20
- ・ 前田砦跡21-22
- ・ 大平城跡23-24
- ・ あとがき/参考文献...25-26

！ 注意事項！

本スタンブラリーに挑戦される皆様は、下記の内容を熟読してご参加ください。

【責任範囲について】

本スタンブラリーは完全に自己責任での参加となります。事故やケガが発生した場合、主催者は一切の責任を負いません。くれぐれも、安全を第一に考え、ご自身の体力や状況を十分に考慮し、無理のない範囲でお楽しみください。

【服装・持ち物】

・ スマートフォンなど、緊急時に救助を求められるツールを必ず携帯ください。地形等によってつながりにくい場合もありますので、常に注意ください。

・ 一部、険しい地形が含まれますので、動きやすい服装（長袖・長ズボン・帽子・手袋の着用推奨）と滑りにくい靴を着用してください。トレッキングボールの利用も推奨します。水分補給用の飲み物を必ず持参してください。他、季節によってクマよけ鈴、虫よけスプレーなどをご利用ください。

【安全管理】

・ コース外に出ないようにしてください。危険な箇所に踏み込むなど迷う可能性があります。

※各山城は現代的に整備されているわけではありません。荒天の後や草が繁茂する時期などには道が分かりづらくなる場合もあります。コースが危ないと感じた場合は、必ず引き返してください。また、コースは自然変化等で崩落などが発生している場合があります。その場合も、絶対に進まず、引き返してください。

・ 急斜面や険しい場所では慎重に行動し、転倒、滑落などに十分注意してください。

・ 降雨時、降雪時、凍結時は絶対立ち入らないでください。滑落や大けが、場合によっては死亡事故に直結します。

・ ハチ、ヤブ、ヘビ、クマなどが生息している地域であり、遭遇する場合があります。十分にご注意ください。

【環境への配慮】

ゴミは必ず各自で持ち帰り、自然環境を守る行動をお願いします。動植物をむやみに採取・触れることは避け、自然の状態を尊重してください。本スタンブラリーは地域の皆様のご理解・ご協力の上で実施しています。モラルを守って行動ください。

▼【KEINAN SPOT】HP



【その他スタンブラリー全般について】

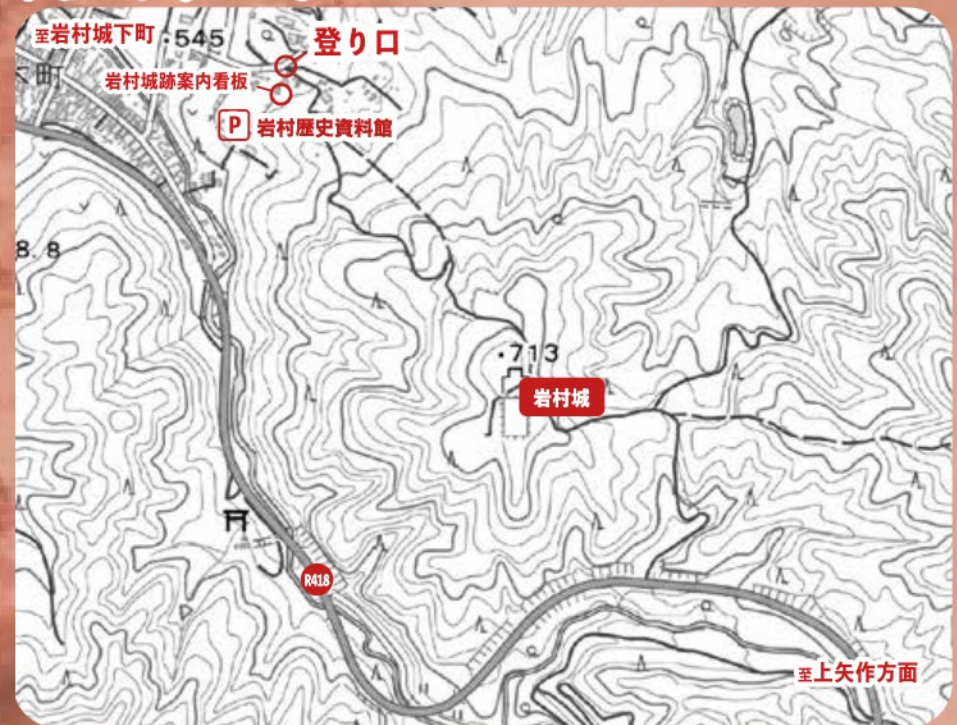
・ 開催期間情報等については主催者 HP「KEINAN SPOT」を検索してご確認ください。

年代	恵南地区の主な出来事	恵南地区の交戦勢力	恵南地区の戦闘結果・状況
1565年(永禄8年)	岩村城主・遠山景任、織田信長の娘を養女として迎える	織田家 × 武田家(圧力下)	織田との同盟関係が強化。恵南一帯は織田方に近づく。
1568年(永禄11年)	信長、足利義昭を奉じて上洛	---	遠山氏も織田政権に接近。岩村などの諸城の安定が図られる。
1571年(元龜2年)	遠山景任死去	---	岩村城の防備が不安定化。未亡人・おつやの方(信長の叔母)が統治に関与。
1572年(元龜3年)	秋山虎繁率いる武田軍、東美濃に侵攻(第一次岩村攻め)	武田軍 × 明知・岩村・上村周辺の織田方	上村合戦にて織田方敗退。門野兄弟らが籠城するも撃破される。明知・飯羽間など緊張高まる。
1573年(元龜4年)	武田勝頼、岩村城を攻略。おつやの方を正室とする	武田軍 × 岩村城(織田方)	武田方が岩村城を掌握。おつやの方と秋山虎繁による武田政権下の統治開始。織田方東美濃の拠点を喪失。
1574年(天正2年)	飯羽間城主・遠山友信、武田方に寝返る	武田軍 × 織田方(内通)	飯羽間周辺の織田勢力が動揺。防衛線が崩れ始める。
1575年(天正3年)5月	【尾張での出来事】 長祿の戦い：織田・徳川連合軍、武田軍を撃破	【尾張での出来事】 織田・徳川連合 × 武田勝頼軍	武田方大敗。秋山虎繁戦死。 【恵南地区への影響】 おつやの方処刑。岩村城を含む東美濃の諸城が織田方に再編入される。

— 真実性について —

皆様にできるだけ往時の雰囲気をお楽しみ頂く事を目的とし、冊子の内容は古文書類を典拠に作成しております。しかし、地域の古文書は戦災で多くが失われており、一次資料（信憑性は一般的に高い）から覚書・伝聞の類（信憑性は一般的に低い）まで取り上げざるを得ないのが実情です。よって、主催者は冊子の内容に関して信憑性・真実性は一切主張しません。疑問を感じられる方もいらっしゃるかも知れませんが、あくまでエンターテインメントとしてお楽しみください。

いわむらじょうあと 岩村城跡 登城ルート



【城の紹介】

城郭は、城山の山上に本丸、二の丸、東曲輪、出丸、八幡曲輪が置かれている。北西山麓に藩主の居館（藩主邸跡）が置かれ、その西側に城下町が展開されている。城下町の中央を流れる岩村川の北が武家地、南が町人地となっている。本丸は、二つの二重櫓と多門櫓が整備されていた。二の丸は、上下二段からなっており、本丸へは、二の丸門を入ると下段から上段を屈折しながら進む、連続する虎口空間として機能していた。出丸は本丸の南西にあり、二重櫓と多門櫓で厳重に防備されていた。八幡曲輪は、本丸・二の丸へと通じる道があったため、二の丸門の正面には「橋櫓」と呼ばれる特殊な二重櫓があるなど、侵入してきた敵にとっては、過酷な作りとなっている。岩村城は近世では数少ない山城であるが、先行する戦国期の縄張りに規制されることなく建てられていることから、近世城郭として一つの到達点を示していると考えられる。戦国期の城郭の主要部分は残っていないが、近世の整備から外れた山腹の尾根筋には堀切や曲輪が残っており、周辺の山城の主格に匹敵する規模の曲輪もあることから、城の規模の大きさがしのばれる。

●山城までのアクセス

GoogleMAPで「岩村城跡」を目指すとうわりやすいです。

●駐車スペース

「岩村歴史資料館」をご利用ください。

●スタンプ台までの進み方

「昇竜の井戸」の近くにありますが 登り口からの所要時間目安 20～30分

『おつや』 戦国境界探訪エピソード

織田信定の娘として生まれる。岩村城主であった遠山景任に嫁ぎ、信長の政略に深く関わっていた。景任の死後、武田軍の配下である秋山虎繁に岩村城を侵攻された際に、領民領地の安堵を条件に虎繁に嫁ぐ。長篠の戦いで武田軍が落ちるものの、寝返ったことに対する信長の怒りは収まらず、処刑されてしまう。

いい ば まじょう あと 飯羽間城跡 登城ルート



『遠山友勝』 戦国境界探訪エピソード

岩村氏から分出した遠山一家が城主に名を連ねている。
織田と武田の攻防が本格化する永禄末年から元亀年間の城主は、
遠山友勝・友忠父子である。

【城の紹介】

城跡は、飯羽間川が形成した比高 30m の低い独立丘上にあり、丘全体に曲輪が展開する。主郭部分は長辺 20 ～ 35m、短辺約 20m の曲輪が東西に三段連なる。防御は急な自然地形と切岸に頼っており、明瞭な虎口や土塁などは認められない。

城の西側には、向山と呼ばれる小丘があり、細い尾根により連絡している。この丘も頂部が削平されて畑となっており、さらに西に続く丘陵との間は堀切状の谷によって画されている。

●山城までのアクセス

GoogleMAP で「飯羽間城登城口」を目指すとわかりやすいです。

●駐車スペース

「飯羽間城登り口この先 100m 看板」付近の交通を妨げないスペースを利用ください。
登り口直前に駐車スペースはありません。

●スタンプ台までの進み方

「飯羽間城跡」への案内看板に従って進んでください。登り口からの所要時間目安 15 分。

かみとうげじょうあと
上手向城跡 登城ルート



●山城までのアクセス

GoogleMAPで「上手向城跡」を目指すとわかりやすいです。

※通りに面した案内看板等はありませんのでご注意ください。

●駐車スペース

「山岡振興事務所駐車場」をご利用ください。

※登り口前は非常に狭い行き止まりの生活道路につき進入しないでください。

●スタンプ台までの進み方

案内看板に従って進んでください。登り口からの所要時間目安 15 分。

『勝義実』 戦国境界探訪エピソード

永禄七年(1564)岩村城主の遠山景任が大井の武並神社を再建し、上手向城主の勝親子が祝いの手能を舞った。

【城の紹介】

小里川北岸の丘陵上に立地する二つの曲輪群からなる。この説明板のある曲輪群は「城ヶ峯」と呼ばれている。曲輪の規模は小さく、堀切なども不明瞭である。もう一つの曲輪群は、ここから南東約100mの10m低い位置にあり「隠居峯」と呼ばれている。東西に並ぶ二つの曲輪からなり、東側の尾根続きは堀切と土塁で画されている。

しもとうげじょうあと
下手向城跡 登城ルート



『渡邊権七郎』 戦国境界探訪エピソード

渡辺権七郎串原遠山右馬助配下で、佐々良木城主渡辺新右エ門の兄である。

【城の紹介】

土岐坂（山岡から小里・神籠に向かう山越えの道）の登り口を押さえる尾根に立地する。単郭で小規模であるが、横堀とこれと連動した縦堀により周囲を厳重に囲繞し、背後は堀切と土塁で区画する。技巧的な縄張から、元亀天正の争乱で構えられた陣城の可能性が高い。

●山城までのアクセス

GoogleMAPで「下手向城跡」を目指すとうわかりやすいです。

※通りに面した案内看板等はありませんのでご注意ください。

●駐車スペース

「下手向簡易郵便局」周辺の交通を妨げないスペースをご利用ください。

●スタンプ台までの進み方

案内看板に従って進んでください。また、ルート沿いの樹木にピンクリボンが巻いてあります。登り口からの所要時間目安 15 分。